橋本　保 1967．日本のスミレ．206 pp．誠文堂新光社，東京．
浜　栄助 1975．原色日本のスミレ．280 pp．誠文堂新光社，東京．
——（編）1987．写真集日本のすみれ．188 pp．誠文堂新光社，東京．
五十嵐　博，梅沢　俊 2000．ケマルバスミレ北海道に産す．植物研究雑誌 **73**: 187–189.
いがりまさし 1996．山渓ハンディ図鑑 6．日本のスミレ．247 pp. 山と渓谷社，東京．
井波一雄 1966．日本スミレ図譜．187 pp 六月社，大阪．
Ledebour C. F. von 1842. *Viola milabilis*. Flora Rossica. **1**: 250–251.
Maximowicz C. J. 1859. *Viola milabilis*. Primitiae florae Amurensis. Mem. Acad. Sci. St. Pétersb. Sav. Étrang. **9**: 49–50.
籾山泰一 1982．スミレ科．日本の野生植物．草本 **II**：243–253．平凡社，東京．
田渕誠也 1996．すみれ図鑑．174 pp．栃の葉書房，鹿沼．
大賀歌子 1930．すみれ図譜．p. 8，pl. 8. 生き物趣味の会，東京．
高橋　誼 1967．日高北部の植物相(2)．北陸の植物 **15**: 97–102.
王　慶瑞 1991. *Viola mirabilis* L. 中国植物志 **51**: 26–29. 科学出版社，北京．

([a]北海道野生植物研究所
001-0013 札幌市北区北13条西3丁目13番地，
[b]055-[redacted]門別町[redacted]，
[c]056-[redacted]静内町[redacted])

新　刊

□岩月善之助（編）：**日本の野生植物　コケ** 192 pl. + 355 pp. 2001．平凡社．￥19,500.

963種の見事なカラー写真に加えて，線画による説明も加えて約1700種類という，日本産コケ植物のほとんどすべてをカバーする図鑑である．これ迄の「日本の野生植物」シリーズと構成が異なるのは，カラー写真頁が一まとめになって先頭に置かれていることと，植物体が小さいために，説明のための細部の線画が多数示されていることである．カラー写真の大部分は，伊沢正名氏が現場で専門家の指導を受けながら，三年余をかけて撮影したものという．ほとんどすべてが拡大撮影のため，大変苦労されたようだ．おかげで専門外の人間の鑑賞にも耐える，美しいコケの映像を見ることができ，あらためてコケ好きの人が増えるのではないだろうか．日本の図鑑に不可欠な和名も，本書の制作にともなって従来は学名しかなかった100以上もの種に新たに与えられている．これもコケ学の普及に寄与することだろう．環境問題や自然保全の意識が進む中で，植生を下支えするコケを認識理解する上で，歓迎すべき一書である．巻頭にコケ植物の見方，用語解説，巻末に学名，和名索引があるが，新和名，新学名の表示があるとよかったと思う．（金井弘夫）

□エリック・ハンセン（著）屋代通子（訳）：**ラン熱中症～愛しすぎる人たち** 292 pp. 2001．NHK出版．￥2,000（税別）．

本書は原題をOrchid Fever: A Horticultural Tale of Love, Lust, and Lunacyという．出版年は2000年で植物紀行家・冒険家Eric Hansenが書いた．タイトルから容易に想像されるように，本書は近年ますます愛好者が増し，世界中がその熱狂的なブームに湧くランに関係する人々の生態を描いている．野生種を絶滅から救う目的で生まれたワシントン条約締結以後，資源的・園芸的価値ある植物を獲得しようとする欧米国家，巨大研究機関，個人のバトルは熾烈をきわめている．特に野生ランでは，営利目的と教育研究目的の利用には確固たる線引がなされているため，特定の学術目的以外の利用のための取引は国際的に厳しく禁止されている．それがゆえ，違法な採取，移入，密輸，取引を巡るハンターの暗躍，研究に名を借りた不正行為を働く研究者が横行し，さらにそれらの指摘・指弾，そしてスキャンダル等が後を絶たない．

本書ではこうしたランの採取，取引，研究に絡んで著者が得た情報やインタヴューによって，現実の状況が紹介され，種々の問題点が指摘されているところに，私は興味を抱いた．不幸にも日本には世界的な野生植物研究機関